

Title	Knowledge-Beat (ナレッジ・ビート) vol.3
Author(s)	
Citation	
Issue Date	2007-03
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/3776
Rights	
Description	

知識科学に基づく科学技術の創造と実践

Vol. 3
2007 春

Knowledge-

Beat

ナレッジ
ビート

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY
1998

21世紀COEプログラムとは？

日本の大学を世界的研究
教育拠点へ育成するための
文部科学省の重点的支援。
COEとは「Center Of Excellence
(卓越した拠点)」の略です。

【特集】

積極的摩擦で
「**活きた知**」を生み出す
イノベーション
拠点に!

Part1 COE拠点リーダーインタビュー

残り1年!

“**中森流**”
COEプログラムの
現在と未来

Part2 潜入! COEの拠点

科学技術開発
戦略センター

Part3 COE拠点を形成し、効果的運営を行う

拠点形成活動
プロジェクト

COE NEWS

COEリーダーは考える③

18年度COEを総括する



積極的摩擦で「活きた知」を生み出す イノベーション拠点に!

Part1 “中森流” COEプログラムの現在と未来

Part2 COEの拠点 科学技術開発戦略センター

Part3 COE拠点を形成し、効果的運営を行う 拠点形成活動プロジェクト

<Part 1>

COE拠点リーダーインタビュー

残り1年!

“中森流” COEプログラムの 現在と未来

COEプログラムも残り1年となった今、拠点リーダーである中森義輝教授はどのように思い、これからいかに進めようとしているのか? 知識科学研究科だけではなく、JAIST全体を巻き込んだ“中森流” COEプログラムを今一度考える。



Profile 中森義輝 NAKAMORI Yoshiteru

北陸先端科学技術大学院大学 科学技術開発戦略センター長。知識科学研究科長・教授。工学博士。2003年10月の本COEスタート時から拠点リーダーを務める。専門分野はシステム工学、感性工学。

Q: COEプログラム設立の経緯は?

■「文理融合」で異分野に精通した人材を育成

ここ数年で大学や大学院の社会的立場が変化しました。バブル崩壊後、大企業は中央研究所を閉鎖し、基礎研究を縮小。国は大学や大学院にその役割を求め、「産学連携」を打ち出してきました。そして大学は日本全体の「イノベーション（技術革新）」を考えなければならない時代に入ったのです。大学自体がそれを理解するのに長い時間がかかり、そんな中で、新しい研究・教育機関としてJAISTが誕生しました。

したがって、JAISTの使命は科学技術を社会へ還元することです。そのためにはどのようなCOEプログラムが相応しいのか?当初、JAISTは世界と競争し、理論研究をすることを打ち出していました。しかし、一方で、社会との連携、企業との連携を深める努力をしていかなくてはならないのです。

私が所属する知識科学研究科の理念の一つに「文理融合」がありますが、これは異分野に精通した人材をつくるということです。簡単に言うと「経営の分かる技術者」「技術の分かる経営者」を育成することです。この理念を実行に移し、異分野に精通した人材を社会へ還元し、社会・企業と連携していくことが、JAIST

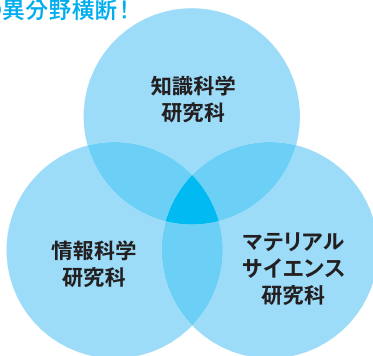
T知識科学研究科が目指すCOEプログラムだと考えたのです。

Q: プログラムはどう組み立てられましたか?

■3研究科が一丸となる“斬新な構想”

この人材育成は知識科学研究科だけでは完結できません。当研究科には情報学や経営学に精通した人材はいますが、科学技術の専門家がいないのです。そこでJAISTの情報科学研究科とマテリアルサイエンス研究科に協力を求めました。加えて、情報学や材料科学系の科学技術を、知識科学に基づきながら、人材育成、ナレッジマネジメント、技術マネジメントという面から支援することができないかを考えました。

●異分野横断!



Q: どのように運営を進めてきたのでしょうか?

■4つの分野とイノベーションの追求

まず、ナレッジマネジメント、経営学専門の教授陣と、材料科学、情報科学専門の教授陣を同じプロジェクトに投入し、イノベーションを目指した大学院における研究、あるいは学生の教育はいかにあるべきかという主題を走らせました。しかし、経営学の専門家と材料科学や情報科学の自然科学者との考え方や言語が全く違い、お互いが何をやっているか、互いの悩みを理解するのに一年もの月日を費やしました。次にそれを解決するため、個々に活動していたプロジェクトを4つの分野に分けて運営。中でも、イノベーションをおこすにはどうしたらよいか、イノベーションをおこす人材育成にテーマを絞ったプロジェクトは、本COEならではの試みです。

●COEのプロジェクトにおける4つの分野

イノベーション研究

COE拠点形成活動

知識科学の確立

イノベーション教育

Q: 4つの分野の進め方をお聞かせください。

■拠点づくりを担うイノベーション研究・教育

「イノベーション研究」には知識科学・マテリアルサイエンス研究科の教員・学生が集まり、「イノベーションをおこすにはどうするか?」という研究を行っています。プロジェクトリーダーはマテリアルサイエンスの教授陣。彼らには知識科学の研究に協力してもらっています。彼らが入ることで知識科学の研究者にとっては実際に科学技術開発者と話し合うことができ、知識科学の理論が精緻化されるからです。プロジェクトリーダーには、彼ら自身が興味を持っている哲学やアニメーション制作などをとことん追究してもらっています。それをRA(リサーチ・アシスタント)や科学技術開発戦略センターの研究員が、本COEの方向からそれないようサポートしています。

このプロジェクトで重要なことは、「異分野融合」の真っ只中にあるRAの成長です。積極的に会議記録を作らせたり、自身のテーマを決めて発表させたりしています。1年や2年の異分野交流のプロジェクトで、人間がそんなに変わるものではありませんが、少なくとも心構えは変わるはず。プロジェクトの最後に自分がどのように変わったのかをインタビューする予定です。

2つ目の分野は科学技術開発戦略センターを中心にした「COE拠点形成活動」です。ウリツピツキ特任教授がリーダーを務めるプロジェクトは、科学技術開発におけるナレッジマネジメントモデルの構築や、世界との交流、国際学会を開くことを目的としています。小林助教授のプロジェクトでは、COEの次の課題としてソーシャル・イノベーションに向けて戦略を練っています。その成果として、「地域再生システム論」などが昨年登場しました。現在のナレッジマネジメント構築と次のテーマ探索が当センターの教員を中心にうまく進んでいます。

3つ目の分野は「知識科学の確立」。知識科学を定義して普及するにはどうするかというも

のです。知識科学の教員全員がこのプロジェクトに参加しています。知識科学とは何か、いかにして創造されるかなど、杉山教授を中心にそれぞれが考える知識科学についてまとめた書籍を制作し、梅本教授を中心に知識科学を定義づけています。

4つ目は「イノベーション教育」です。これは主としてマテリアルサイエンス研究科の学生にナレッジマネジメントや技術経営を講義しています。将来的にイノベーション教育のカリキュラムの中に、今までイノベーション研究プロジェクトでやってきた成果を教科書等にして取り入れる予定です。

今年は堀教授がプロジェクトの成果を講義に取り込みました。他のプロジェクトも来年度は必ず取り込みます。

Q: イノベーションはどのように生まれますか?

■アイデアが創発される「場」をつくる

地域社会や企業との連携という応用事例を見ていると、理論と実践を結びつけ、異分野交流する中からイノベーションがおこり、知識が創造されるという確信が出てきました。

たとえば、近藤教授のMOT実践論の講義は、聴いている人がすごく元気になる。彼流のやり方で、人間の脳を刺激する講義をしているのです。脳が活性化するとアイデアが出てくる。自分だけではなく、異分野の人が集まっているいろいろな気づきがあり、アイデアが創発される。つまり、お互いの思いをなんとか語ろうとする場をつくり、外からエネルギーや情報という刺激を与え、どうすれば成功するかという事例も与えることで、学生たちはみるみる活性化していく。「イノベーションには“ワイガヤ”が必要だ」と言った初代研究科長・野中郁次郎教授の理論を実感しました。

Q: それをどのようにCOEプログラムに取り込んでいますか?

■「理論」だけではなく「実践」を教える

異分野交流を実践し、コーディネータとして活躍している人や事例をデータ化し、新しい知識創造モデルをつくり理論化する。同時に知識をコーディネートできる人材もどんどん育成しなければならぬ。そうするには、「教授は理論家でなければ」というこれまでの大学の風潮を変え、企業で活躍した人も教授として招き入れ、理論だけでなく、どうしたら実践できるかを



学生たちに教えていかななくてはなりません。そして、いろいろな経験を積んだ社会人も学生として多く入ってきてほしい。そして、若い学生たちと対話してほしい。

企業に20年いれば、ナレッジマネジメントが分らなくてもナレッジマネージャーになれます。しかし、JAISTで脳を活性化させることにより、若い学生がそれを5年10年に短縮することは可能でしょう。

Q: COEから、どのような人材が育てほしいとお考えですか?

■地域で活躍する「知のコーディネータ」

志のある学生は社会に出て知のコーディネータとして活躍してほしいのですが、現在の社会システムでは受け皿が存在しないのが現状です。企業に所属しながらでは面白くありません。そこで、地域で調査研究して、申請書を書いて、いろいろコーディネートをして、5年くらいの国家プロジェクトを取って、その運営をする。そういうことを個人でやりながら、いろいろな地域を渡り歩けるような人材が出てほしいですね。

Q: 残り1年、最終段階へ向けての抱負は?

■方向性やメンバーは変えずに成果を生み出す

4分野の研究を堅持し、完成に向けて頑張るのが来年度です。この方向性は変えませんが、4年間してきたことを完成させる。だから事業推進者、RA(リサーチ・アシスタント)もぜひ同じメンバーでと考えています。

経営学で「イノベーション」とは、経済効果を生み出すまでを含めた「技術革新」を言います。しかし研究者として、経済効果を生み出さないまでも、そこへ確実につながる研究開発として捉え、ぜひ成果を出したいです。



潜入!

COEの拠点 科学技術開発戦略センター

大学の独立法人化に向け、JAISTでは経営や新しい科学技術戦略、それを考えるブレーン集団が必要となった。そこで、学長直属で大学全体の科学技術開発戦略を考える場として「科学技術開発戦略センター」が誕生した。

現在、その戦略の一つ「知識科学21世紀COEプログラム」の拠点として、COEに関連するすべてのプロジェクトを管理・運営している。

また、ここは学長直属の組織として、どの研究科からも独立した存在。だから、教職員、学生も含めて、全学の誰でも入れ、かつ誰でも意見交換できる場として開放している。

まさに、異分野交流の空間、知識創造の場、そして、イノベーションの拠点である。

科学技術開発戦略センターメンバー

- センター長・教授／中森義輝
- 特任教授／WIERZBICKI,A.P.
- 助教授／小林俊哉
- 研究員／宮下芳明、TIAN,Jing、浅野浩央、碓谷 勝
- 拠点形成研究員／鶴岡洋幸
- 客員研究員／矢部敏明、坪坂由美
- セクレタリ／河端アキ子、雁田早苗

センターミーティング。週1回、今後の戦略や現在の活動を報告する目的で開かれる。



COE事業推進者や学生、地域や企業からも多くの人がセンターを訪れ、いつも活気にあふれている。

ジャーナルコーナー。センター内には本COEの成果として出版物等が多数置かれている。



プロジェクトミーティングの様子。センターのミーティングテーブルは学内の誰にでも開放されている。



COEの
エネルギー
源!

<Part3>

COE拠点を形成し、効果的運営を行う 拠点形成活動プロジェクト

研究プロジェクト1

知識科学の定義と普及、 図書出版、国際会議主催

■研究目的

知識科学、つまり「知とは何か?」「知はいかに創られるか?」という大きな問いの答えを見つけ、さらに「知識科学」の社会的位置づけを明示するため、「知識社会」のイメージ・課題を抽出し、その課題解決に対していかに貢献できるかを研究する。

■現在の活動内容

- 書籍「ナレッジサイエンス」に続くシリーズ本の執筆
- 国際会議などの主宰
- COE-Englishセミナーの開催(月1回)

■プロジェクトメンバー

<代表者>

梅本勝博/知識科学研究科教授

<推進者>

本多卓也/知識科学研究科教授

Ho Bao Tu/知識科学研究科教授

杉山公造/知識科学研究科教授

吉田武稔/知識科学研究科教授

國藤 進/知識科学研究科教授

近藤修司/知識科学研究科教授

中森義輝/知識科学研究科長・教授

井川康夫/知識科学研究科教授

<協力者>

橋本 敬/知識科学研究科助教授

大串正樹/知識科学研究科助手

河崎さおり/知識科学研究科助手

研究プロジェクト2

知識創造モデルと ナレッジマップ

■研究目的

知識創造過程のより良い理解のためのさまざまなマイクロ理論を比較検討し、科学技術創造場における知識創造モデルを開発する。

■現在の活動内容

- イノベーション創出のための「マイクロ理論」を開発
- 関連研究を行っている大学・研究所、研究者に関する情報を含むナレッジマップの作成
- 科学技術開発における「良い場」とはどのようなものか検討し、「場」を評価するための知識創造モデルを開発

■プロジェクトメンバー

<代表者>

WIERZBICKI,A.P./科学技術開発戦略センター特任教授

<推進者>

中森義輝/知識科学研究科長・教授

吉田武稔/知識科学研究科教授

<協力者>

ZHU,Zhichang/科学技術開発戦略センター客員教授

TIAN,Jing/科学技術開発戦略センター研究員

<Research Assistant>

菊池智子/知識科学研究科博士後期課程

SAITO,A./知識科学研究科博士後期課程

SON,H./知識科学研究科博士後期課程

研究プロジェクト3

学際コミュニケーション・ サイエンスカフェ

■研究目的

学問分野間、異なる組織間の壁を越えるためのコミュニケーションスキルの育成方法を検討する。

■現在の活動内容

- 講義「学際コミュニケーション論」のカリキュラム作成
- サイエンスカフェの実施

■プロジェクトメンバー

<代表者>

小林俊哉/科学技術開発戦略センター助教授

<協力者>

碓谷 勝/ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー研究員

浅野浩央/科学技術開発戦略センター研究員

宮下明珠/知識科学研究科博士後期課程

<Doctoral Candidate>

千原かや乃/知識科学研究科博士後期課程

<Research Assistant>

高木里実/知識科学研究科博士後期課程

研究プロジェクト4

知識情報環境整備・電子図書館

■研究目的

知識資産をデータ化して蓄積・活用していくための「知識科学図書館」を開発する。

■現在の活動内容

- 「研究・技術計画学会」の講演要旨論文集をデータ化し、WEB上で検索・閲覧できるシステムの開発
- 手書き論文からのキーワード検索システムの開発

■プロジェクトメンバー

<代表者>

吉田武稔/知識科学研究科教授

<推進者>

小林俊哉/科学技術開発戦略センター助教授

松澤照男/情報科学センター教授

<協力者>

宮下芳明/科学技術開発戦略センター研究員

学内外で活躍する イノベーション研究プロジェクトリーダー 四天王

「成熟産業におけるイノベーション」 寺野 稔教授(マテリアルサイエンス研究科)

次世代型ポリオレフィン総合研究会のリーダーに

本学と複数の企業が連携し、ポリオレフィンの新たな技術開発を考える「次世代型ポリオレフィン総合研究会」が寺野稔教授をリーダーとして発足。寺野プロジェクトのメンバーも参画している。

2006年11月16・17日、東京・田町のキャンパス・イノベーションセンターで行われた第1回研究会では、寺野プロジェクトメンバーで東京富士大学経営学部講師の篠崎香織氏が「石油化学産業のイノベーションにおける『規模』の影響—研究開発を促進する側面と阻害する側面—」と題し講演。科学技術開発戦略センターの鶴岡洋幸研究員が「強いコンビナート文化の構築」に関する講演を行った。

今年1月24日には本学において第2回研究会の準備会(本年8月に東京にて実施予定)が開かれ、そこで日本のポリオレフィンが世界を相手に生き残っていくためには、10年先を見据え、企業が共同して研究開発に取り組むことが必要ではないかなど、さまざまな意見が交わされた。



次世代型ポリオレフィン総合研究会

「研究哲学に裏打ちされた知識創造活動」 由井 伸彦教授(マテリアルサイエンス研究科)

知識とは何か!に迫る。由井コロキウム開催

由井プロジェクト主催の第53回コロキウム(公開討論会)は2月6日に本学・知識科学研究科7階セミナールームを会場として開催された。本コロキウムは、イノベーションへとつながる独創的な研究に



由井コロキウム

必要な哲学や教育の在り方などについて、さまざまな分野から参加者が集い、議論する場として2004年1月からスタートした。

本コロキウムの全体コーディネータは由井伸彦教授が務め、毎回、「研究への動機付け」など決められたテーマについて発表者が話題を提供、その後でディスカッションを行う。今回のテーマは「知識とは」。言葉にできない感情、情緒、暗黙知というものが、実は科学的な新しい発見にかかわり合っているのではないかなど議論が交わされた。今年度のコロキウム活動の成果は、2005年10月発刊の「研究哲学」の続編としてまとめ、来年度に刊行を予定している。

「コーディネータとしての知識習得法」 堀 秀信教授(マテリアルサイエンス研究科)

学際コミュニケーション論で講義

現代の複雑な問題解決のために異分野の有機的連携が必須とされるなか、統合科学技術コースの共通科目では学問分野間、異なる組織間の壁を越えるためのコミュニケーションスキルを養成する「学際コミュニケーション論」を、昨年12月から今年1月にかけて開講した。

今回で2回目となる学際コミュニケーション論は5名の先生方が担当。その一人、堀秀信教授が本COEでの研究成果を活かして「温度・熱現象を咲かせた物質科学の物語」と題した講義を行った。堀教授は、この講義で物理学の専門的知識を持たない学生に対しても、物語を通して物理学の面白さや感動を伝え、専門家とどこまで共有



学際コミュニケーション論

できるかについて検証を行った。

また、講義以外にもディスカッションやグループワークによるビジネスアイデア発表が行われ、堀教授がコーディネータを務めた。

「研究室のナレッジマネジメント」 民谷 栄一教授(マテリアルサイエンス研究科)

人材発掘・育成を支援するセミナーのコーディネータに

いしかわサイエンスパークにおける雇用機会の創出を図るため、企業が必要とする人材の発掘・育成を支援するISP人材確保・育成セミナーが、2月23日、石川ハイテク交流センターで開催された。

演題を「日本の景気循環と労働市場」として、講師に内閣府経済社会総合研究所景気統計部長の館逸志氏を迎え、コーディネータを民谷栄一教授が務めた。館氏は人材支援をより広い視点で養うため、いざなぎ景気以来の好景気といわれる現在の景気状況を分析し、労働市場の抜本的改革、再チャレンジを支援する総合プランなどについて講演した。

16年度から年間約30回開催されているこのセミナーは、今年度が最終となる。初年度はバイオ研究についての講師として参加した民谷教授だが、地域と連携して進めたバイオ研究プロジェクトが評価され、17年度より「研究者の視点で考える地域再生を担う人材育成」をテーマに、年5回のコーディネータを務めてきた。



ISPセミナー

知識科学COE-RAシンポジウム

RAに選抜された学生が研究成果を発表!

今年度のRA (リサーチ・アシスタント) に選抜された9名の学生たちが1年間の研究成果を発表する「知識科学COE-RAシンポジウム」が、2月27日に本学知識科学研究科棟3・4講義室で開催された。

本シンポジウムのテーマは「イノベーション」。RAからは物理現象をアニメーションに変換し、わかりやすく表現するツール開発や、既に成熟したと見なされている産業のイノベーション研究など、さまざまな研究成果が出揃った。発表後はRA個々に対して、COE拠点リーダーの中森義輝教授らからコメントがあり、研究への示唆が与えられた。来年度、RAは論文を完成させて、COE最終成果として発表する。



白熱した3時間半!
シンポジウムの模様



【発表者と発表タイトル】(当日発表順)

■平松章男 (知識科学研究科)

大学院の化学系研究室における研究テーマ探索手法の開発について
—成熟産業におけるイノベーションに関する研究—

■吉永崇史 (知識科学研究科)

科学知識の創造のためのラボラトリ・マネジメント
—北陸先端科学技術大学院大学 水谷研究室を対象とした事例研究

■Kitsakorn Locharoenrat (マテリアルサイエンス研究科)

Success of Life Based on Motivation Behavior: Case Study
between Japanese students and Asian students at JAIST

■高木里実 (知識科学研究科)

学際コミュニケーション活動の本年度における実績と展望

■高橋誠史 (知識科学研究科)

プレゼンテーションのための物理エンジンを搭載したアニメーションツールの開発
〔NICOGRAPH2007 春季大会: Spring Festival in TAF CGAC 2007〕において
審査員特別賞受賞

■井波暢人 (マテリアルサイエンス研究科)

IMPORTANT ROLE OF POPULARISATION OF PHYSICAL
SCIENCE TO THE MODERN BUSINESS ACTIVITY

■菊池智子 (知識科学研究科)

知識創造場の評価に関する研究

■水元明法 (知識科学研究科) / 塚本匡俊 (マテリアルサイエンス研究科)

汎用ツールによる研究室マネジメント
—デジタルペンの導入を事例として—

COEリーダーは考える③

18年度COEを総括する 中森 義輝

昨年度までの本COEのプロジェクトは、異分野交流の立ち上げ、相互理解に時間がかかりました。今年度はCOE評価委員会の指導のもと、「イノベーション研究と教育」を異分野交流の中心的指針に据え、拠点形成活動を精力的に実施してきました。

イノベーション研究では、知識科学研究科とマテリアルサイエンス研究科の教員、学生から選抜したRA (リサーチ・アシスタント) で構成される4つの分野横断プロジェクトを組織し、マテリアルサイエンスにおけるイノベーションの創出や、それを担う人材育成の研究に取り組みました。イノベーション教育では、分野横断型の統合科学技術コースやMOTコースの充実をはかりました。また、イノベーションの創出を担う「知のコーディネータ」の候補としてRAに養成講座を実施し、所属するプロジェクトの運営に汗を流してもらいました。

地域においてもイノベーションをおこすべく、「地域再生フォーラム」

(8月)を皮切りに、「地域再生システム論講座」(9月)の開講、「北陸! 地域再生シンポジウム」(11月)の開催など、さまざまな立場の方々と地域活性化について活発な意見交換をさせていただきました。

すべての事業は順調に進んでおり、最終年度となる19年度も、この一年間の方向と内容を堅持したいと考えています。また、知識科学研究のあり方をさらに検討・普及することに努め、「分野横断イノベーション研究教育拠点」として拠点形成に鋭意努力していきます。



知への扉は、あなたに開かれています。

分野横断型の教育プログラム 統合科学技術コース 平成19、20年度 募集要項

■選抜方法

これまでの専門分野を問わず、社会人、留学生を含め、あらゆる分野から意欲のある人材を受け入れるため、面接を主体に行い、学業成績証明書その他の提出書類と総合判定し、合格者を決定します。

■募集人員

- 知識科学研究科:若干名
- 情報科学研究科:若干名
- マテリアルサイエンス研究科:若干名

■入試日程

【博士前期課程】

平成19年10月および平成20年4月入学

※提出書類は当日消印有効

試験区分	資格審査提出締切※	出願締切※	選抜期日	試験会場	合格者発表	入学手続
10月入学	5月22日(火)	6月19日(火)	7月14日(土)、15日(日)	本学 東京 大阪	7月25日(水)	9月18日(火)～19日(水)
4月入学					第1回	8月23日(木)
	第2回	11月20日(火)	12月18日(火)		1月19日(土)、20日(日)	1月30日(水)
第3回	2月5日(火)	2月26日(火)	3月8日(土)	本学	3月12日(水)	3月18日(火)～19日(水)

【博士後期課程】

平成19年度7月・10月・1月および平成20年4月入学

※提出書類は当日消印有効

試験区分	資格審査提出締切※	出願締切※	選抜期日	試験会場	合格者発表	入学手続
7月入学	4月6日(金)	4月20日(金)	5月21日(月)～28日(月)	本学	6月6日(水)	6月18日(月)
10月入学	5月22日(火)	7月13日(金)	8月20日(月)～9月4日(火)		9月7日(金)	9月18日(火)～19日(水)
1月入学	10月5日(金)	10月26日(金)	11月19日(月)～26日(月)		12月5日(水)	12月17日(月)
4月入学	11月20日(火)	1月11日(金)	2月1日(金)～13日(水)		2月20日(水)	3月6日(木)～7日(金)

■お問合せ

①コース内容について

学生課教務係 TEL(0761)51-1936 FAX(0761)51-1959 E-mail:kyoumu@jaist.ac.jp
http://www.jaist.ac.jp/coe/ist_course/indexJ.htm

②募集要項請求・入試について

入学支援室入学支援係 TEL(0761)51-1962 FAX(0761)51-1959 E-mail:nyushi@jaist.ac.jp
<http://www.jaist.ac.jp/gakusei/>

編集後記

今年度は主に各プロジェクトの充実や、ホームページ・広報誌のリニューアルに取り組み、最終年度である平成19年度への準備の年となりました。今月は活躍してくれた研究員たちが巣立って、平均年齢が一挙に上がってしまう当センターですが、プロジェクトの継続と、5年間の成果報告書の作成に向けて頑張っていきます。

科学技術開発戦略センター

Knowledge-Beat【ナレッジ・ビート】 Vol.3 2007 春

■発行 2007年3月
■発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学 科学技術開発戦略センター
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1〔知識科学研究科棟Ⅱ・7階〕
◇科学技術開発戦略センターホームページ
<http://www.jaist.ac.jp/coe/indexJ2.htm>

■制作 株式会社バステララボ

○本誌に関するご意見・お問合せ

TEL(0761)51-1839 FAX(0761)51-1767 E-mail:coe-secr@jaist.ac.jp

次号 予告 Vol.4 2007 夏
【特集】猛ダッシュ!最終年度を迎えた各プロジェクトに迫る!